

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら

S-O-S vol. 170通信
H26年10月8日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

＜10月予定＞

- 1日 遠足
- 10日 外食DAY
- 14.15日 運動会
- 20日 避難訓練

＜不定期行事＞

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します

＜利用状況案内板（☆募集中 ☆満員）＞

☆ナイス・ケア
☆ナイス・デイ（定員10名/日）

日	月	火	水	木	金	土
6	8	7	8	7	7	7

☆ナイス・ホーム（登録者20名/定員21名）
☆愛宕の家（入居者16名/定員17名）
☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ
☆打太鼓9月生（新メンバー）大募集♪
～上記を参考にご利用下さい～

笑顔の奥には…/ナイス・デイ

私がデイサービスに携わるようになり、既に100名を超える方々との出会いがあった。まさしく一期一会。その時その時で本当に色々な方と出会う。関わり方もそれぞれ…。最近、特に心に残る言葉がある。「ちょっとお。早く送ってえ」「うちに帰るでハイヤー呼んで」「息子に会いたい」等々…。何とも切ない言葉。

私達も、精一杯の愛情で関わっているがご家族の愛情には敵わない。

そんな時は、利用者さんの気を引くような会話や手作業など、志向を凝らし、気分転換を狙う。思わずシャッターを押したくなるようなとびきりの笑顔を見せてくれる。そんな笑顔に出会うために今日も一日頑張ろう！（M・O）



運動会/ナイス・キッズ

去年、キッズ達の通う小学校の運動会に参戦した。キッズ達の校区はバラバラで、4つの小学校にお邪魔した。子供達も、お互いの小学校の運動会に参戦する。

自分の通う学校の運動会の種目の違いに関心を持ったり、運動場の大きい小さい、日頃関わらないキッズの学校での友達とお喋りしたり・・・と、刺激も満載！

今年は、運動会が近づくと、「俺（私）の運動会、誰が来る？」「俺（私）は〇〇小学校の運動会に行くの？」と尋ねて来た。『え～、運動会組じゃない子（私）は、皆、行くでしょう！』と答えると、決まって「来んといてえ」と笑って拒否される。理由は様々。「みんなが来ると弁当が足りなくなるから…」「友達にあの人達誰？って聞かれて答えるのが面倒臭いもん」「大きい声で応援されるの恥ずかしいもん」等々…。そうは言いながら、最終的には「別に来てもいいよっ。ついでにR君の誕生日会もやるっか！」と小声で計画を打ち明けられたりする。

さて、運動会当日。

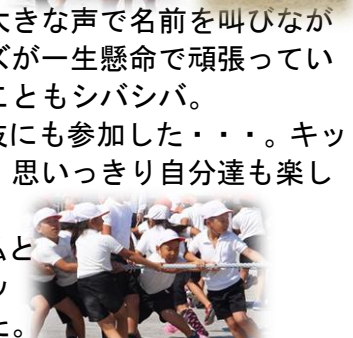
どうみても家族じゃないだろう、この集団！って感じで陣取って、しかも、運動会組じゃないキッズが居るから「なぜ、この子は出場してないのか？」という視線も浴びている。

競技中は、親よりも遥かに大きな声で名前を叫びながら応援している自分達。キッズが一生懸命で頑張っている姿をみると涙が溢れてくることもシバシバ。

ある小学校では、保護者競技にも参加した……。キッズを応援するためじゃなくて、思いつき自分達も楽しんだ。いいのかなあ……。

お弁当持参せず。参戦する私とキッズ達の分は全て運動会キッズのお母さんが用意してくれた。「ちゃんと大目に作ってあるから一緒に食べよ！遠慮せずどぞ♪」と盛り沢山のお弁当。家族の分だけ作るよりも大変だろうと思いつつ、その想いが嬉しくてついつい遠慮せず食べてしまう。

こんな風に、休日の家族（学校）行事に関わらせてもらえる関係ってなかなか無いよ。本当に素敵♪（R・W）



介護職として/ナイス・ケア

訪問介護を利用開始されたSさん。「自宅で生活したい」と、十数年の施設生活にピリオドを打ち、自宅へ戻ってきたと聞いた。90歳を過ぎているが、とてもしっかりしている印象。

本人は「自分でやれる限りのことを、自分でやりたい。」と介護保険の自立支援に基づいた考え方の持ち主である。掃除、調理、買物、環境整備等の生活援助を主に関わる計画だ。担当者が集まり内容確認を行う。

先日、庭の草がキレイに刈られていた。聞くと、100円ショップで草刈り用の鎌（カマ）を買ってきて自分で刈ったと…。庭の手入れはヘルパーには対応出来ないが、独りで頑張り過ぎではないかと心配になる。

『疲れてないか？』・・・と声を掛けるが「自分でやりたいのだ。」と嬉しそうに返事がある。頭が下がる。

まだ、関わりは始まったばかり。生活者の考え方を尊重しその人らしさを大切にしたい。訪問介護員として適切な対応ができるように……。 (H・A)



介助/ナイス・ホーム

左麻痺のWさん。私なりに安全な介助が出来る様に声をかけながら対応していた。しかし、怖がられ、立つことさえしてもらえなかった…。

これではいけないと思い、他のスタッフの介助方法を聞いてみると、『Wさんは左足をとても気にしている。だから左足の事が不安にならないような声かけや介助が必要だよ』と教えてくれた。

なるほど。Wさんが何に不安を感じているのか。どこに注意しなくてはいけないのか。私は気付かなかった。

他のスタッフと違う介助をしていたから、Wさんは立つ事さえできなかったのだと気付いた。ひとりよがりの介助方法だったのだ。

Wさんに限らずだが、同じように関わっているつもりが、確固たる根拠が明確に出来ない場合、介助方法や声かけが、もしかしたら他のスタッフと私は違ってしまうのかもしれない。

利用者さんにとって、スタッフの対応がそれぞれ違う事は不安や不信感に繋がる。毎週のカンファレンスや日々の関わりの中での的確に認識し実践していきたい。

私にとって、自身を振り返る機会となった。(T・M)

日々の出来事/看護師

時々、愛知看護協会の研修に出掛ける。

“すごい！なるほど！”と思えるような情報がないかは勿論だが、外の空気を吸いたくなるというのも正直な気持ち。自分が最新の医療からどんどん遠ざかっているような気持ちが不安に繋がるのだろう。研修で自分の感覚を確認できることで不安を解消している。

自分の知識、技術に常に不安がある。その不安を少しでも減らしていくために“訪問看護認定看護師”という資格をとってみたいと以前から思っていた。ところが受験資格の中で「訪問看護の実績」が必要であったため、私には受験資格さえなかった。

以前、看護協会に“小規模や住宅型有料老人ホームも在宅医療が必要であり訪問看護師と同じように知識や技術が必要だということを知ってほしい”と要望を出したことがある。

先日参加した研修の時、目に入った研修案内の内容にびっくり。受験資格が、「訪問看護の実績がなくても在宅における看護を担当していること」と変更されていた。

私でも受験資格があるんだ！！と嬉しく感じた。実際に今すぐ受験することは難しいけれど、いつか勉強できたらと思っている。(M・T)

共感しあうこと/愛宕の家

先月入居されたKさん。最初の頃はあまり笑顔もみられず、終始不安気な表情で、「私、何でここに居るのかな？」「息子を呼んで、息子に会いたい。」と繰り返していた。Kさんにしてみれば突然連れてこられたと感じているのだから、無理もないだろう。

しかし、このセリフどこかで聞いたことが……。一字一句とまではいかないまでもほぼ完全コピーのこの言葉。半年ほど前に入居されたIさん。今も変わらず言われるのだが、Kさんが落ち込んでいるのを見て、「なるようにしかならんよ、ここにおれば安気に暮らせるよ、ご飯も出してもらえし、風呂も入れてもらえしね～」と声をかけていた。人見知りがなくご自分から誰でも声をかけるIさんは、元気がない人を見るとほっとおけない性分なのだろう。自分のことより人のことになってしまった。

私達スタッフよりも、お互い同じ立場の入居者さん同士の方が通じ合うものがあるのか。勿論Kさんも最近は笑顔が見られるようになったのは言うまでもない。(K・T)



編集後記

この前、敷居につまずいた。バリアフリーが当たり前となった便利な世の中で過ごしてきた自分は、思いのほか足が上がっていないのだと気付いた。便利が良いのか、不便の方が良いのか…。

私たち介護職も同じかも。ただの「助けてくれる人」で終わらないようにしたいものだ。(Y・O)

小学1～5年生KIDが4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚を選び、掲載♪

おちてこい

